

## 積分の面積への応用

## 例題2 放物線と2接線

別解

$y = f(x) = x^2 + ax + b^2$ ,  $P(\alpha, f(\alpha))$ ,  $Q(\beta, f(\beta))$  ( $\alpha, \beta$  は  $\alpha \neq \beta$  かつ  $0$  でない実数),  
 点  $P$  における接線を  $y = mx$ , 点  $Q$  における接線を  $y = nx$  とすると,

$$f(x) - mx = (x - \alpha)^2 \quad \dots \textcircled{1}$$

$$f(x) - nx = (x - \beta)^2 \quad \dots \textcircled{2}$$

①-②より,

$$(-m + n)x = -2(\alpha - \beta)x + (\alpha - \beta)(\alpha + \beta)$$

上の等式は任意の  $x$  について成り立つから, 両辺は恒等式の関係にある。

よって, 定数項は  $0 = (\alpha - \beta)(\alpha + \beta)$

$$\text{これと } \alpha \neq \beta \text{ より } \alpha + \beta = 0 \quad \therefore \alpha = -\beta \quad \dots \textcircled{3}$$

$$\text{また, } \alpha \neq \beta \text{ かつ } \textcircled{3} \text{ より, } \alpha < 0 < \beta \quad \dots \textcircled{4}$$

ここで,

$$S_1 = \int_{\alpha}^0 (f(x) - mx) dx = \int_{\alpha}^0 (x - \alpha)^2 dx = \left[ \frac{(x - \alpha)^3}{3} \right]_{\alpha}^0 = -\frac{\alpha^3}{3}$$

$$S_2 = \int_0^{\beta} (f(x) - nx) dx = \int_0^{\beta} (x - \beta)^2 dx = \left[ \frac{(x - \beta)^3}{3} \right]_0^{\beta} = \frac{\beta^3}{3}$$

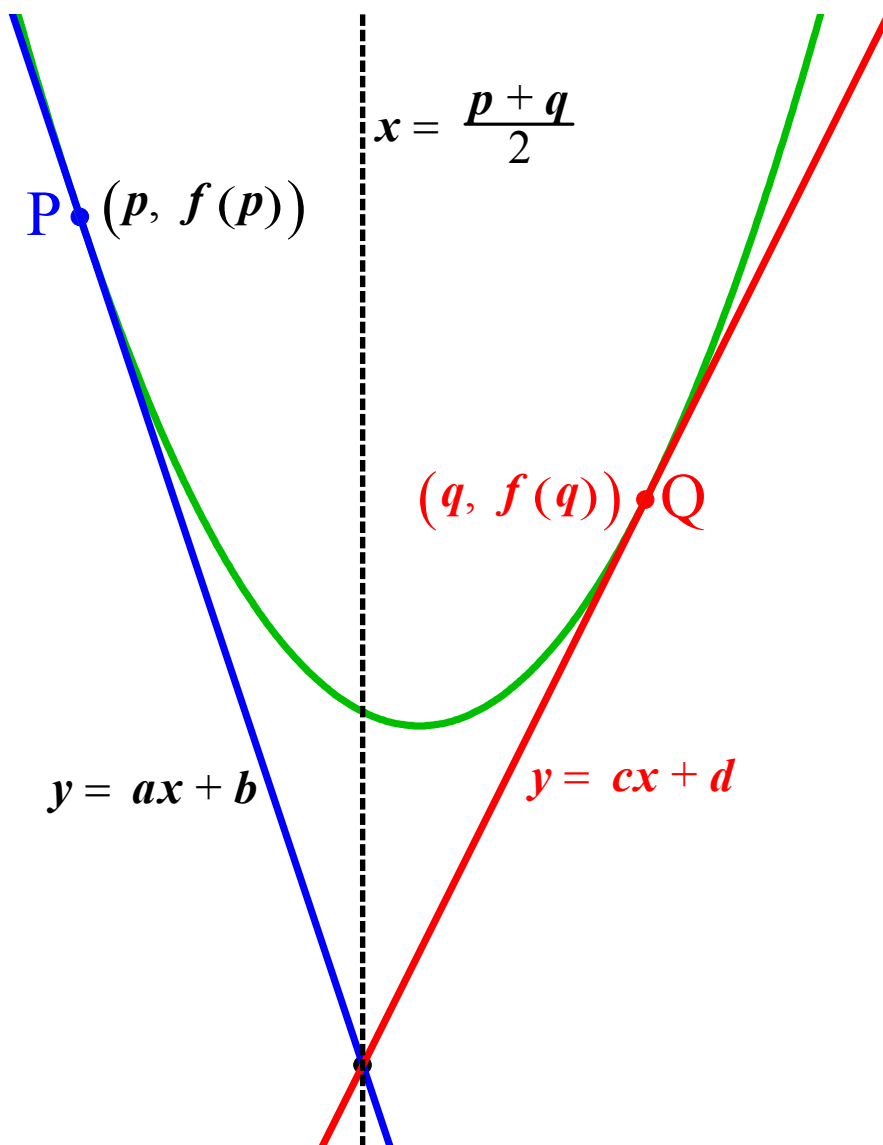
これと③, ④より,

$$-\frac{\alpha^3}{3} = -\frac{(-\beta)^3}{3} = \frac{\beta^3}{3}$$

よって,  $S_1 = S_2$

ゆえに,  $S_1 : S_2 = 1 : 1$

放物線と2接線に囲まれた部分の面積について



2次関数  $y = f(x) = Ax^2 + Bx + C$  について、  
 接点を  $P(p, f(p))$  とする接線の式を  $y = ax + b$   
 接点を  $Q(q, f(q))$  とする接線の式を  $y = cx + d$   
 とすると、

接線の交点の  $x$  座標は  $ax + b = cx + d$  より、 $x = \frac{-b+d}{a-c} \dots \textcircled{1}$

また、

$$f(x) - (ax + b) = A(x - p)^2 \dots \textcircled{2}$$

$$f(x) - (cx + d) = A(x - q)^2 \dots \textcircled{3}$$

②-③より,

$$-(a-c)x - b + d = -2A(p-q)x + A(p-q)(p+q)$$

等式は任意の  $x$  について成り立つから,

$$a-c = 2A(p-q), \quad -b+d = A(p-q)(p+q)$$

$$\text{よって, } \frac{-b+d}{a-c} = \frac{p+q}{2} \quad \dots \textcircled{4}$$

①, ④より,

$$2 \text{ 接線の交点の } x \text{ 座標は } x = \frac{p+q}{2}$$

(2 接線の交点の  $x$  座標は点 P の  $x$  座標と点 Q の  $x$  座標の midpoint である)

$$\begin{aligned} \therefore S &= \int_p^{\frac{p+q}{2}} A(x-p)^2 dx + \int_{\frac{p+q}{2}}^q A(x-q)^2 dx \\ &= \frac{A}{3} \left[ (x-p)^3 \right]_p^{\frac{p+q}{2}} + \frac{A}{3} \left[ (x-q)^3 \right]_{\frac{p+q}{2}}^q \\ &= \frac{A}{3} \cdot \frac{(q-p)^3}{8} + \frac{A}{3} \cdot \frac{(q-p)^3}{8} \\ &= \frac{A}{12} (q-p)^3 \end{aligned}$$

また,

$$x = \frac{p+q}{2} \text{ と } y = f(x) \text{ と } y = ax + b \text{ で囲まれた部分の面積} = \frac{A}{24} (q-p)^3$$

$$x = \frac{p+q}{2} \text{ と } y = f(x) \text{ と } y = cx + d \text{ で囲まれた部分の面積} = \frac{A}{24} (q-p)^3 \text{ より,}$$

$$x = \frac{p+q}{2} \text{ は } y = f(x) \text{ と } 2 \text{ 接線で囲まれた部分の面積を } 2 \text{ 等分することがわかる。}$$

## 例題3 2つの放物線の共通接線

(1)

解答は「接線問題は接点から」という解法の定石に基づいているが、常に通用するとは限らないので、オーソドックスな解法による別解も示す。

別解

共通接線を  $y = h(x) = mx + n$ ,

共通接線が  $y = f(x)$  および  $y = g(x)$  と接する点の  $x$  座標をそれぞれ  $p$ ,  $q$  とすると、

$f(x)$  と  $g(x)$  のいずれも  $x^2$  の係数が 1 だから、

$$f(x) - (mx + n) = (x - p)^2 \quad \dots \textcircled{1}$$

$$g(x) - (mx + n) = (x - q)^2 \quad \dots \textcircled{2}$$

と表せる。

よって、 $\textcircled{1} - \textcircled{2}$  より、

$$f(x) - g(x) = -2(p - q)x + (p - q)(p + q)$$

これと  $f(x) - g(x) = x^2 - 7x + 10 - (x^2 + x + 2) = -8x + 8$  より、

$$-8x + 8 = -2(p - q)x + (p - q)(p + q)$$

この等式は任意の  $x$  について成り立つから、

$$-8 = -2(p - q) \quad \dots \textcircled{3}$$

$$8 = (p - q)(p + q) \quad \dots \textcircled{4}$$

$$\textcircled{3}, \textcircled{4} \text{ より, } \begin{cases} p - q = 4 \\ p + q = 2 \end{cases} \therefore p = 3, q = -1$$

$p = 3$  を  $\textcircled{1}$  に代入 (あるいは  $q = -1$  を  $\textcircled{2}$  に代入) することにより、

$$\begin{aligned} mx + n &= f(x) - (x - 3)^2 \\ &= x^2 - 7x + 10 - (x^2 - 6x + 9) \\ &= -x + 1 \end{aligned}$$

$$\therefore y = h(x) = -x + 1 \quad \dots \text{(答)}$$

(2)

$y = f(x)$  と  $y = g(x)$  の交点の  $x$  座標は  $x^2 - 7x + 10 = x^2 + x + 2$  を満たすから、 $x = 1$

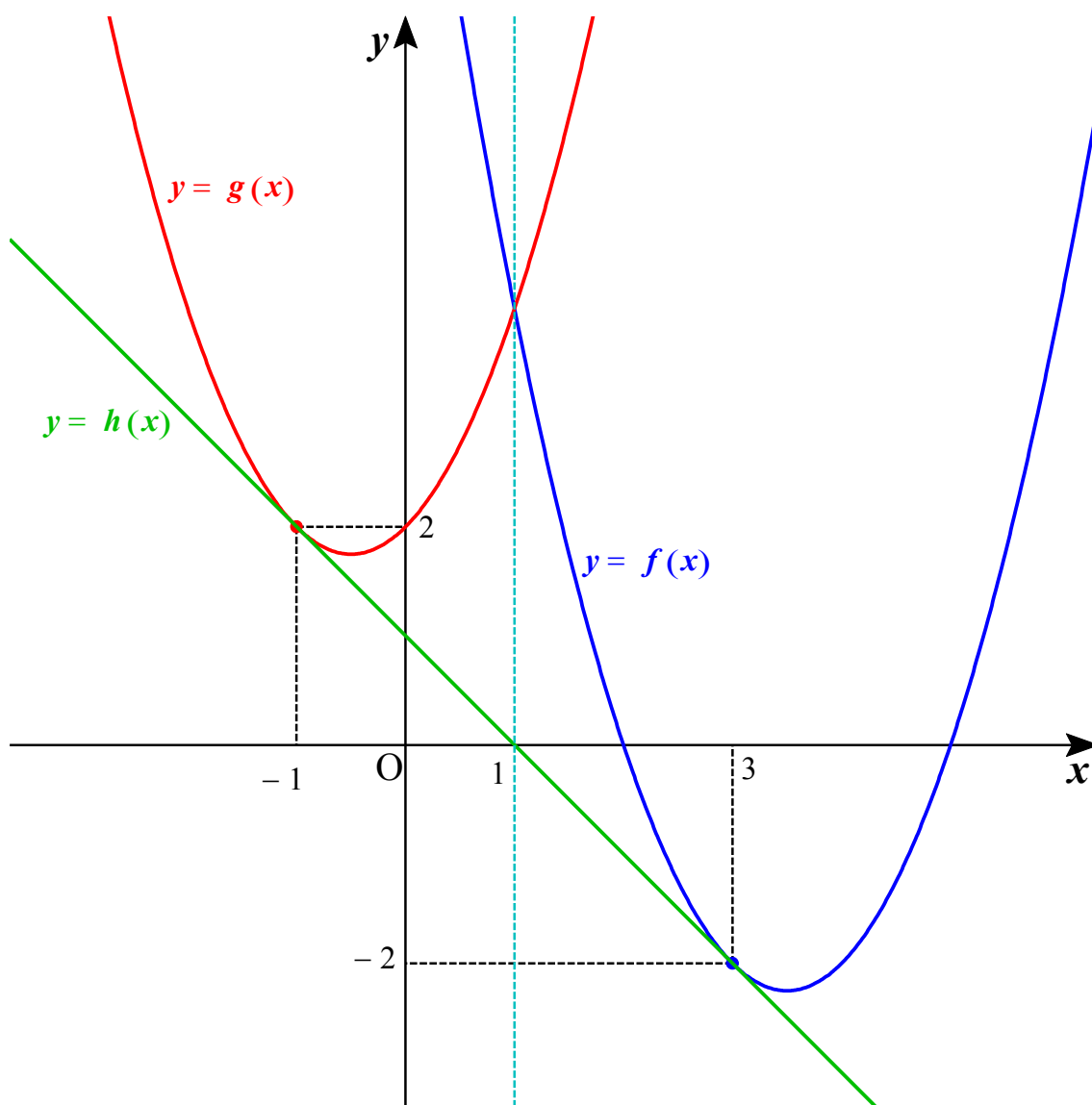
また、 $y = h(x)$  と  $y = f(x)$ ,  $y = h(x)$  と  $y = g(x)$  の接点の  $x$  座標は(1)よりそれぞれ、

$$x = 3, x = -1$$

また、 $\textcircled{1}$ ,  $\textcircled{2}$  より、

$$f(x) - h(x) = (x - 3)^2, g(x) - h(x) = (x + 1)^2$$

$$\therefore \int_1^3 (x - 3)^2 dx + \int_{-1}^1 (x + 1)^2 dx = \left[ \frac{(x - 3)^3}{3} \right]_1^3 + \left[ \frac{(x + 1)^3}{3} \right]_{-1}^1 = \frac{8}{3} + \frac{8}{3} = \frac{16}{3} \quad \dots \text{(答)}$$



## 例題4 放物線の形は一種

別解1:  $x_1$  についての恒等式にもっていく。

$P_1(x_1, x_1^2)$ ,  $P_2(x_2, 2x_2^2 - 4x_2 + 3) = (x_2, 2(x_2 - 1)^2 + 1)$  とおくと、  
接線の傾きが等しいことから、 $2x_1 = 4x_2 - 4$

$$\therefore x_2 = \frac{x_1}{2} + 1$$

$$\therefore P_2\left(\frac{x_1}{2} + 1, \frac{x_1^2}{2} + 1\right)$$

直線  $P_1P_2$  上の任意の点を  $Q(x, y)$ , 原点を  $O$  とすると、

$$\overrightarrow{OQ} = \overrightarrow{OP_1} + k\overrightarrow{P_1P_2} \text{ より,}$$

$$\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_1^2 \end{pmatrix} + k \begin{pmatrix} \frac{x_1}{2} + 1 - x_1 \\ \frac{x_1^2}{2} + 1 - x_1^2 \end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix} x_1 \\ x_1^2 \end{pmatrix} + k \begin{pmatrix} -\frac{x_1}{2} + 1 \\ -\frac{x_1^2}{2} + 1 \end{pmatrix}$$

$$\therefore \begin{pmatrix} x - x_1 \\ y - x_1^2 \end{pmatrix} = k \begin{pmatrix} -\frac{x_1}{2} + 1 \\ -\frac{x_1^2}{2} + 1 \end{pmatrix}$$

$$\therefore (x - x_1) \left(-\frac{x_1^2}{2} + 1\right) = (y - x_1^2) \left(-\frac{x_1}{2} + 1\right)$$

$$\therefore (x - x_1)(x_1^2 - 2) = (y - x_1^2)(x_1 - 2)$$

よって、任意の直線  $P_1P_2$  を表す方程式は

$$x(x_1^2 - 2) - y(x_1 - 2) - 2x_1^2 + 2x_1 = 0$$

すべての直線  $P_1P_2$  が定点を通るならば、

定点の座標をこの方程式に代入したとき、この方程式は任意の実数  $x_1$  について成り立つ。

換言すれば、左辺を  $x_1$  について整理してできた式  $(x - 2)x_1^2 - (y - 2)x_1 - 2(x - y) = 0$  は  $x_1$  についての恒等式となる。

このとき、 $x - 2 = 0$  かつ  $y - 2 = 0$  かつ  $x - y = 0$  より、 $x = y = 2$

よって、直線  $P_1P_2$  は定点  $(2, 2)$  を通る。

別解2：必要条件から入る

$P_1(x_1, x_1^2)$ ,  $P_2(x_2, 2x_2^2 - 4x_2 + 3) = (x_2, 2(x_2 - 1)^2 + 1)$ とおくと、  
接線の傾きが等しいことから、 $2x_1 = 4x_2 - 4$

$$\therefore x_2 = \frac{x_1}{2} + 1$$

$$\therefore P_2\left(\frac{x_1}{2} + 1, \frac{x_1^2}{2} + 1\right)$$

$x_1 = 0$  のとき

$P_1(0,0)$ ,  $P_2(1,1)$  より、この2点を通る直線の方程式は  $y = x$  ……①

$x_1 = 2$  のとき

$P_1(2,4)$ ,  $P_2(2,3)$  より、この2点を通る直線の方程式は  $x = 2$  ……②

よって、①と②の交点は  $(2,2)$  である。

したがって、すべての直線  $P_1P_2$  が定点を通るならば、その定点は  $(2,2)$  である。

そこで、任意の直線  $P_1P_2$  を表す方程式を求め、それが点  $(2,2)$  を通るかを検証してみる。

まず任意の直線  $P_1P_2$  を表す方程式を求める。

直線  $P_1P_2$  上の任意の点を  $Q(x, y)$ 、原点を  $O$  とすると、

$\overrightarrow{OQ} = \overrightarrow{OP_1} + k\overrightarrow{P_1P_2}$  より、

$$\begin{aligned} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} &= \begin{pmatrix} x_1 \\ x_1^2 \end{pmatrix} + k \begin{pmatrix} \frac{x_1}{2} + 1 - x_1 \\ \frac{x_1^2}{2} + 1 - x_1^2 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} x_1 \\ x_1^2 \end{pmatrix} + k \begin{pmatrix} -\frac{x_1}{2} + 1 \\ -\frac{x_1^2}{2} + 1 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

$$\therefore \begin{pmatrix} x - x_1 \\ y - x_1^2 \end{pmatrix} = k \begin{pmatrix} -\frac{x_1}{2} + 1 \\ -\frac{x_1^2}{2} + 1 \end{pmatrix}$$

$$\therefore (x - x_1) \left(-\frac{x_1^2}{2} + 1\right) = (y - x_1^2) \left(-\frac{x_1}{2} + 1\right)$$

$$\therefore (x - x_1)(x_1^2 - 2) = (y - x_1^2)(x_1 - 2)$$

よって、任意の直線  $P_1P_2$  を表す方程式は

$$x(x_1^2 - 2) - y(x_1 - 2) - 2x_1^2 + 2x_1 = 0$$

これを  $x_1$  について整理すると、

$$(x-2)x_1^2 - (y-2)x_1 - 2(x-y) = 0$$

となり、

これに  $x=y=2$  を代入すると、この方程式は任意の  $x_1$  について成り立つ。

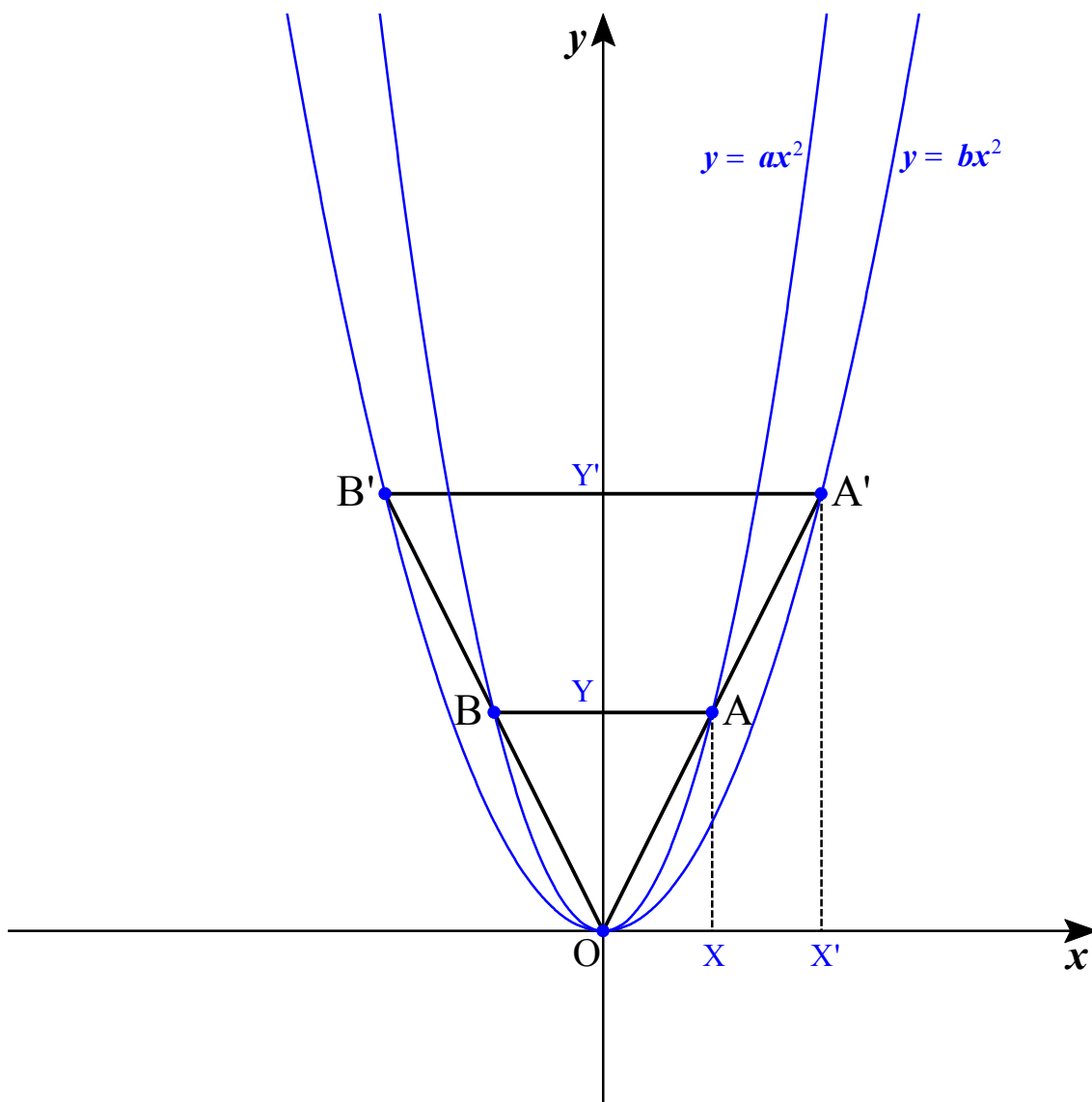
よって、直線  $P_1P_2$  は定点  $(2,2)$  を通る。

## 2 二次関数の相似比と相似中心

実数係数の2次関数はすべて相似あるいは合同であり、

たとえば、 $y=ax^2$  と  $y=bx^2$  の相似比は  $\left|\frac{1}{a}\right|:\left|\frac{1}{b}\right|=|b|:|a|$  である。

ここで、 $a>0$ 、 $b>0$  の場合を考え、その相似比を求めてみる。





図より、 $\triangle OAB$ と $\triangle OA'B'$ の相似比が $y = ax^2$ と $y = bx^2$ の相似比である。

$y = ax^2$ 上の任意の点を $(X, Y)$ とすると、

$$Y = aX^2$$

両辺を $\frac{a}{b}$ 倍すると、 $\frac{a}{b}Y = \frac{a^2}{b}X^2$

よって、

$$\frac{a}{b}Y = b\left(\frac{a}{b}X\right)^2$$

これは、 $\left(\frac{a}{b}X, \frac{a}{b}Y\right)$ が $y = bx^2$ 上の点であることを示している。

よって、図より、

$$(X', Y') = \left(\frac{a}{b}X, \frac{a}{b}Y\right)$$

ゆえに、

$y = ax^2$ と $y = bx^2$ の相似比は $1:\frac{a}{b}$ より $b:a$

#### 別解1

A'は、 $y = \frac{Y}{X}x$ と $y = bx^2$ との交点より、

$$(X', Y') = \left(\frac{1}{b} \cdot \frac{Y}{X}, \frac{1}{b} \cdot \frac{Y^2}{X^2}\right)$$

$Y = aX^2$ より、 $\frac{Y}{X} = \frac{aX^2}{X} = aX$ ,  $\frac{Y}{X} = \frac{Y^2}{\frac{Y}{a}} = aY$ だから、

$$(X', Y') = \left(\frac{a}{b}X, \frac{a}{b}Y\right)$$

ゆえに、

$y = ax^2$ と $y = bx^2$ の相似比は $1:\frac{a}{b}$ より $b:a$

## 対応する点の接線の傾きは等しい

2次関数の相似だから、対応する点の接線の傾きは等しくて当然だが、一応確かめてみよう。

$y = ax^2$ 上の点Aにおける接線の傾きを $m$ とすると、 $y' = 2ax$ より、 $m = 2aX$

$y = bx^2$ 上の点A'における接線の傾きを $m'$ とすると、 $y' = 2bx$ より、 $m' = 2bX'$

ここで、 $X' = \frac{a}{b}X$ だから、 $m' = 2bX' = 2b \cdot \frac{a}{b}X = 2aX$

よって、 $m = m'$

## 別解2

$\triangle OAB$ と $\triangle OA'B'$ において、対応する点の接線の傾きは等しいことを使うと、

$y = ax^2$ の点Aにおける接線の傾きは $2aX$

$y = bx^2$ の点A'における接線の傾きは $2bX'$

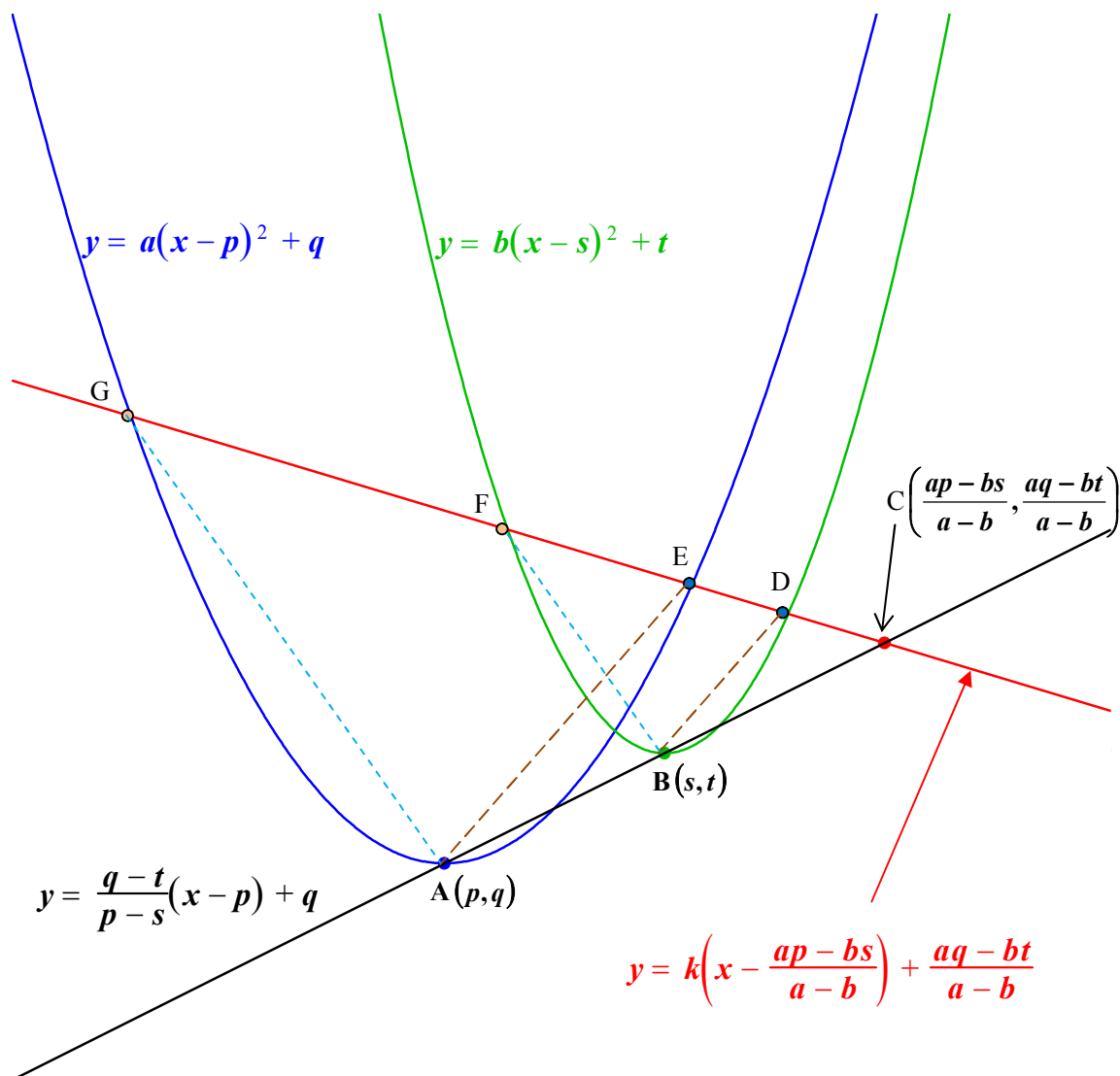
より、 $2aX = 2bX'$

$$\therefore \frac{X'}{X} = \frac{a}{b} \left( = \frac{Y'}{Y} \right)$$

このことから、 $y = bx^2$ は、 $y = ax^2$ を $\frac{a}{b}$ 倍に拡大したものであることがわかる。

よって、 $y = ax^2$ と $y = bx^2$ の相似比は $1 : \frac{a}{b} = b : a$

$y = a(x-p)^2 + q$  と  $y = b(x-s)^2 + t$  の相似中心の求め方



相似中心を  $C$ 、 $y = a(x-p)^2 + q$  と  $y = b(x-s)^2 + t$  の頂点をそれぞれ  $A$ 、 $B$  とすると、対応する点の接線の傾きは等しいから、頂点（接線の傾き 0）を結ぶ直線上に相似中心  $C$  があり、

$y = a(x-p)^2 + q$  と  $y = b(x-s)^2 + t$  の相似比が  $\frac{1}{a} : \frac{1}{b}$ 、すなわち  $b:a$  であることより、

$AC:BC = b:a$ 、すなわち相似中心  $C$  は、線分  $AB$  を  $b:a$  に外分する点である。

よって、 $C \left( \frac{ap-bs}{a-b}, \frac{aq-bt}{a-b} \right)$

相似中心を求めることでどんなことができるか？

ここで、相似中心 C を通る直線の傾きを  $k$  ( $k$  は実数) とすると、

$$\text{直線の式は、 } y = k \left( x - \frac{ap - bs}{a - b} \right) + \frac{aq - bt}{a - b}$$

この直線と  $y = a(x - p)^2 + q$ ,  $y = b(x - s)^2 + t$  との交点をそれぞれ E, D とすると、

C は相似中心だから、 $\triangle ACE \sim \triangle BCD$

対応する点の接線の傾きは等しいから、

点 E における接線と点 D における接線の傾きは等しい。

同様に、点 F における接線と点 G における接線の傾きは等しい。

### まとめ

2 次関数の相似中心を通る任意の直線と 2 次関数との交点から、

複数の 2 次関数において、接線の傾きが互いに等しい点を簡単に知ることができる。

### 補足 1

物理の放物運動の問題を解くとき、2 次関数の相似性を利用する解き方もある。

参考：物理重要問題集を解いてみた 038 床や壁との斜めの衝突

## 補足2

外分点の公式の導き方

AB を  $m:n$  に外分する点を C とすると,

$$\overrightarrow{AC} : \overrightarrow{BC} = m : n \text{ より,}$$

$$n\overrightarrow{AC} = m\overrightarrow{BC}$$

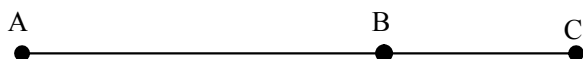
$$n(\overrightarrow{OC} - \overrightarrow{OA}) = m(\overrightarrow{OC} - \overrightarrow{OB})$$

$$n\overrightarrow{OC} - n\overrightarrow{OA} = m\overrightarrow{OC} - m\overrightarrow{OB}$$

$$(m - n)\overrightarrow{OC} = m\overrightarrow{OB} - n\overrightarrow{OA}$$

よって,

$$\overrightarrow{OC} = \frac{m\overrightarrow{OB} - n\overrightarrow{OA}}{m - n}$$



同様に,

AB を  $m:n$  に内分する点を D とすると,

$$\overrightarrow{AD} : \overrightarrow{DB} = m : n \text{ より,}$$

$$n\overrightarrow{AD} = m\overrightarrow{DB}$$

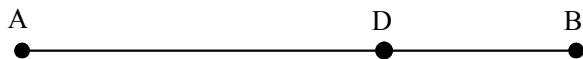
$$n(\overrightarrow{OD} - \overrightarrow{OA}) = m(\overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OD})$$

$$n\overrightarrow{OD} - n\overrightarrow{OA} = m\overrightarrow{OB} - m\overrightarrow{OD}$$

$$(m + n)\overrightarrow{OD} = m\overrightarrow{OB} + n\overrightarrow{OA}$$

よって,

$$\overrightarrow{OD} = \frac{m\overrightarrow{OB} + n\overrightarrow{OA}}{m + n}$$



## 例題5 放物線と幾何図形

(2)

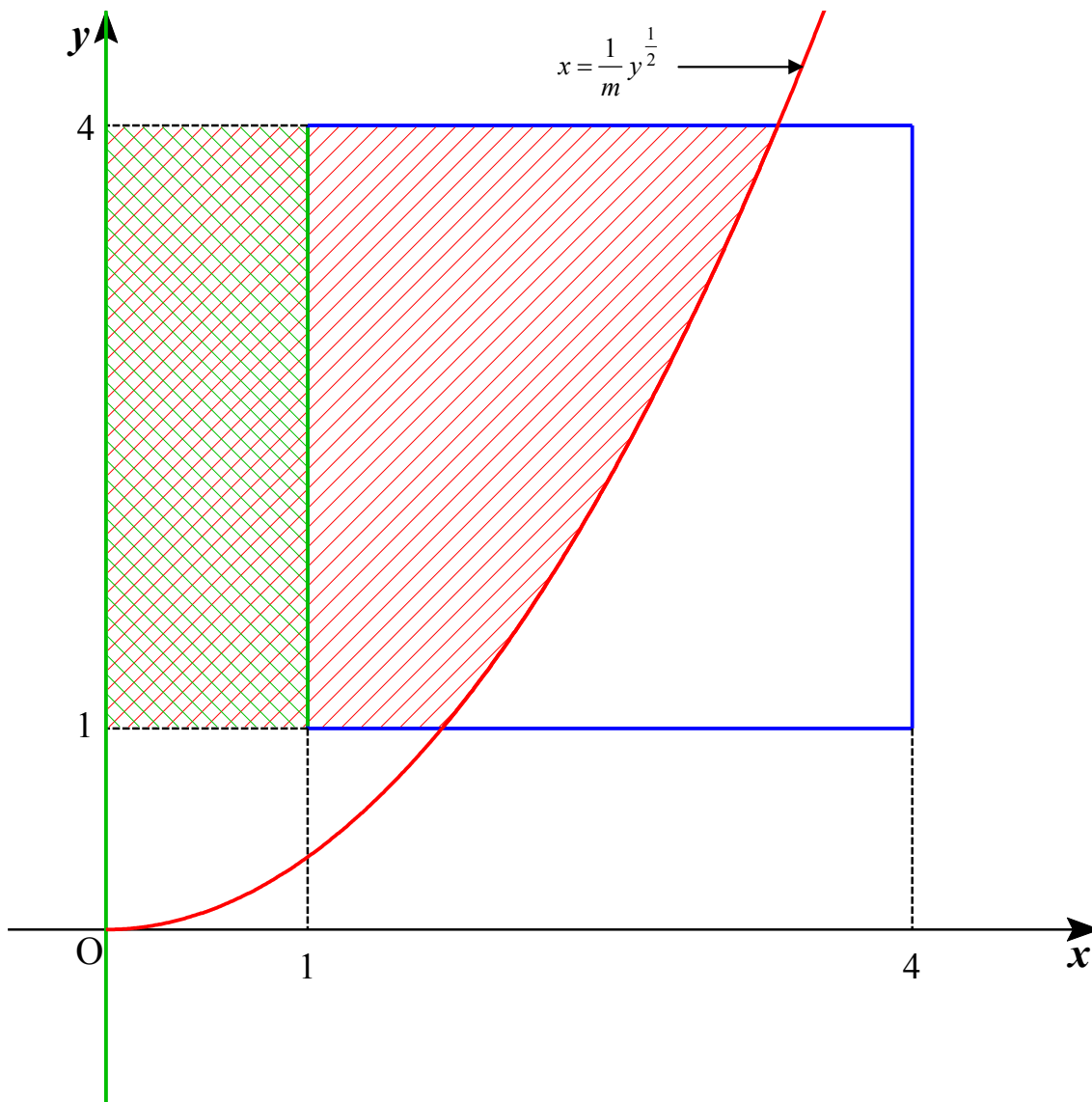
別解

$$y = m^2 x^2 \quad (x \geq 0, y \geq 0) \text{ より, } x = \frac{1}{m} y^{\frac{1}{2}}$$

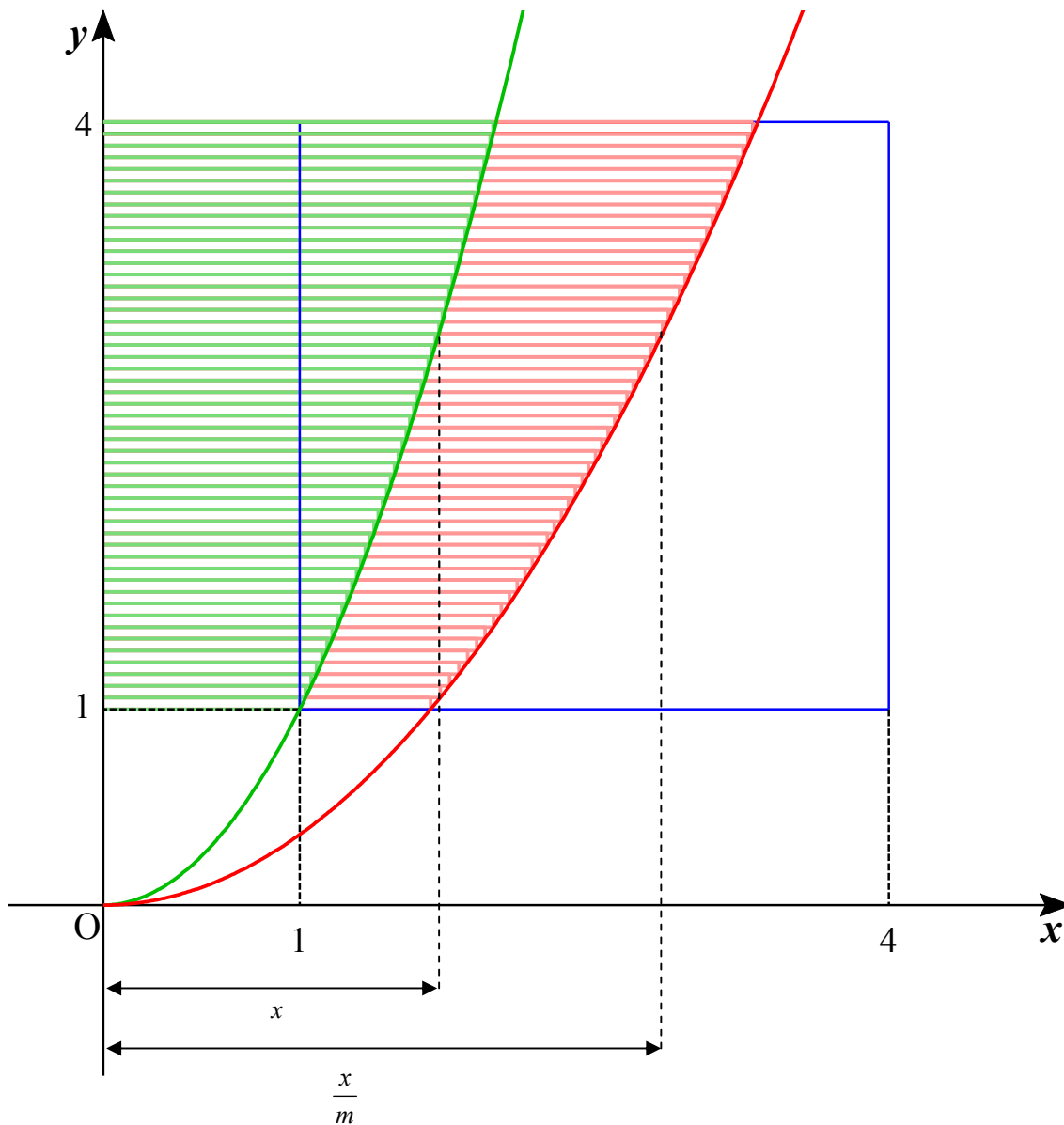
$$\text{よって, 下図赤色斜線部の面積} = \int_1^4 x dy = \frac{1}{m} \int_1^4 y^{\frac{1}{2}} dy = \frac{1}{m} \left[ \frac{2}{3} y^{\frac{3}{2}} \right]_1^4 = \frac{14}{3m}$$

$\frac{14}{3m}$  から緑色斜線部の面積を引くと, 四角形 EFGH の面積の半分, すなわち  $\frac{9}{2}$  になるから,

$$\therefore \frac{14}{3m} - (4-1) \times 1 = \frac{9}{2} \quad \therefore m = \frac{28}{45}$$



(2)の別解の解説の解説



縦の長さが無限小の長方形の面積の総和と見なせば、

個々の長方形の面積比は、横の長さの比  $= x : \frac{x}{m} = 1 : \frac{1}{m}$  より、  $1 : \frac{1}{m}$

よって、その総和も  $1 : \frac{1}{m}$  である。

すなわち  $S = ② \times \frac{1}{m} = \frac{14}{3m}$

## 例題7 3次関数のグラフと接線

(2)

解説の解説

点Qにおける接線の式を  $y = m(x)$  とおくと、

方程式  $x^3 - m(x) = 0$  の3解は  $\beta, \beta, \gamma$  であり、

$x^3 - m(x) = 0$  の2次の係数は0だから、解と係数の関係より、  $2\beta + \gamma = 0 \quad \therefore \gamma = -2\beta$

よって、

$$x^3 - m(x) = (x - \beta)^2(x - \gamma) = (x - \beta)^2(x + 2\beta)$$

$$\begin{aligned} \therefore S_2 &= \int_{\gamma}^{\beta} \{x^3 - m(x)\} dx \\ &= \int_{-2\beta}^{\beta} (x - \beta)^2(x + 2\beta) dx \end{aligned}$$

ここで、  $\int_{-2\beta}^{\beta} (x - \beta)^2(x + 2\beta) dx$  を  $-\int_{\beta}^{-2\beta} (x - \beta)^2(x + 2\beta) dx$  と変形すると、

(1)の  $-\int_{\alpha}^{-2\alpha} (x - \alpha)^2(x + 2\alpha) dx$  の  $\alpha$  を  $\beta$  に変えた式であることに気がつく。

$$\text{よって、 } S_2 = \frac{27}{4} \beta^4$$

$$\text{これと } \beta = -2\alpha \text{ より、 } S_2 = \frac{27}{4} (-2\alpha)^4 = 16 \cdot \frac{27}{4} \alpha^4 = 16S_1$$



**例題 8 3次関数のグラフと放物線**

(1)

点 A の  $x$  座標を  $t$ , 点 A の接線を  $h(x)$  とすると,

$$f(x) - h(x) = (x - t)^2(x - p)$$

$$g(x) - h(x) = -2(x - t)^2$$

と表せるから,

$$f(x) - g(x) = (x - t)^2(x - p + 2)$$

よって,  $f(x) - g(x) = 0$  は  $t$  を重解にもつ。

**例題 9 4次関数のグラフと直線**

(1)

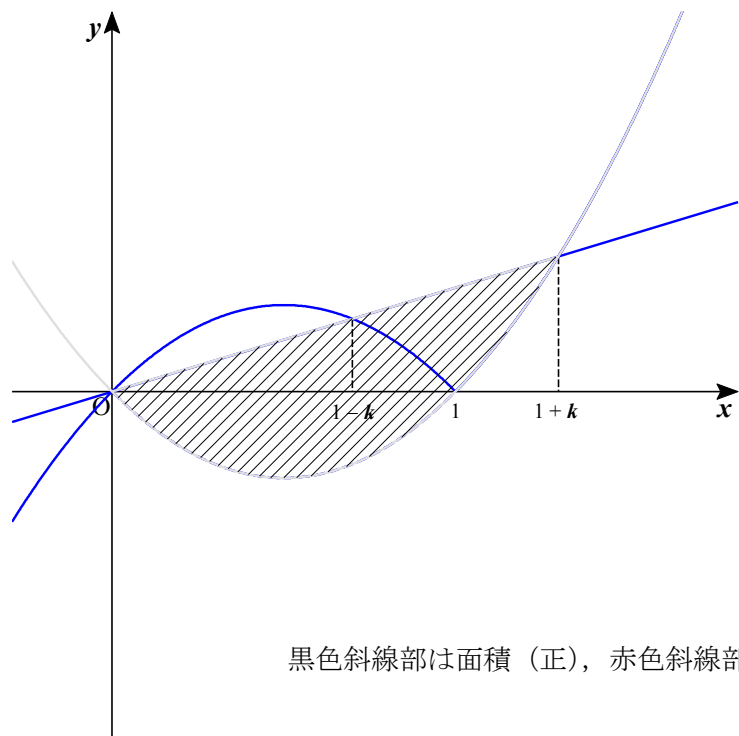
解説の解説

$f(x) = (x^2 - 1)^2 - 1$  より,  $f(x)$  は  $x^2 = 1$ , すなわち  $x = \pm 1$  のとき最小値  $-1$  をとる。

また,  $f(x) = x^2(x^2 - 2)$  より,  $x = 0$  で  $x$  軸と接し,  $x = \pm\sqrt{2}$  で  $x$  軸と交わる。

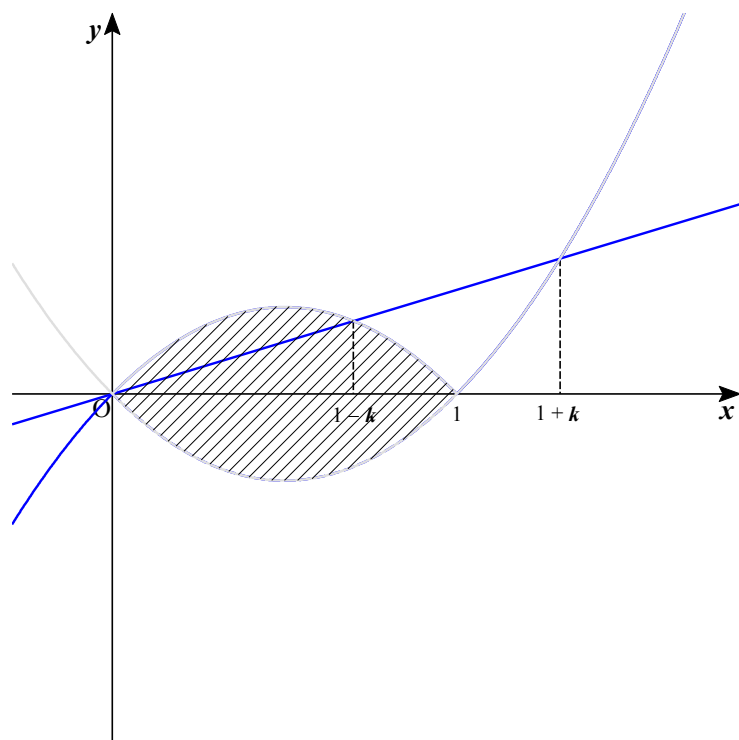
例題 12 面積の最大・最小 (2)

面積を一気に求める方法の解説の解説

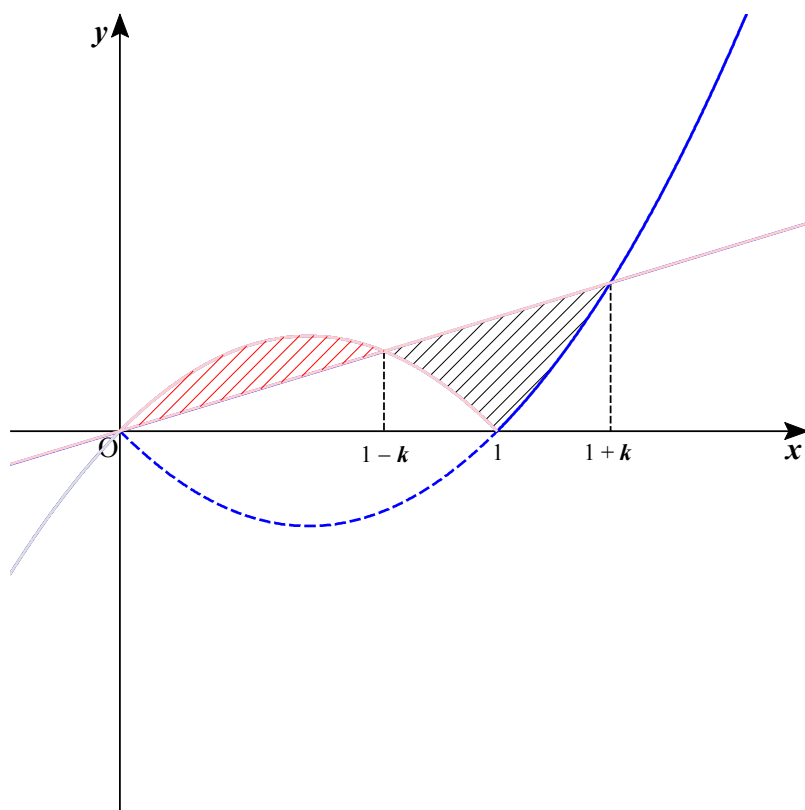


黒色斜線部は面積 (正), 赤色斜線部は面積  $\times -1$  (負)

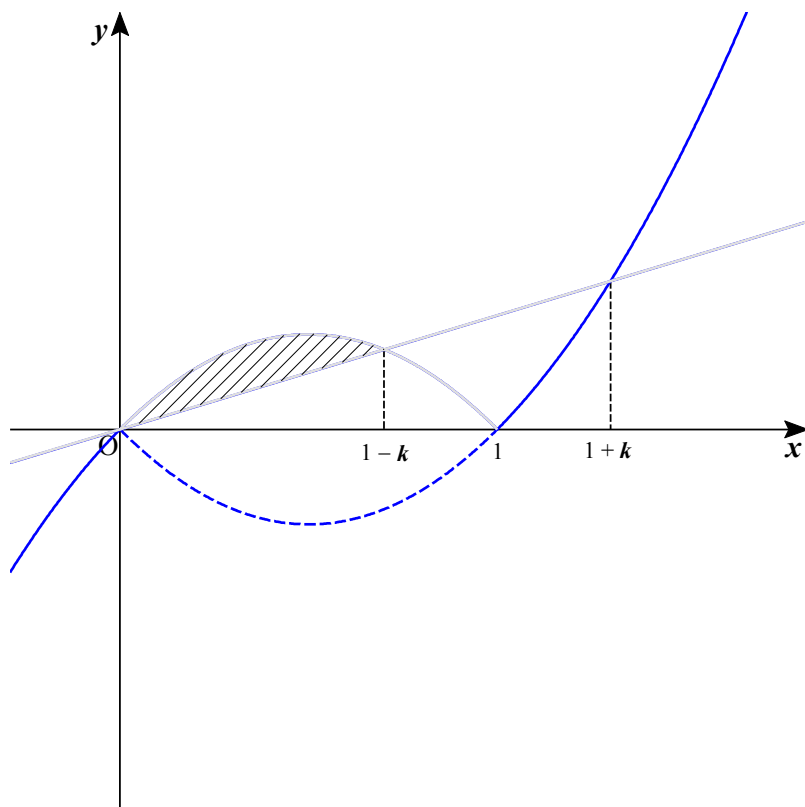
から



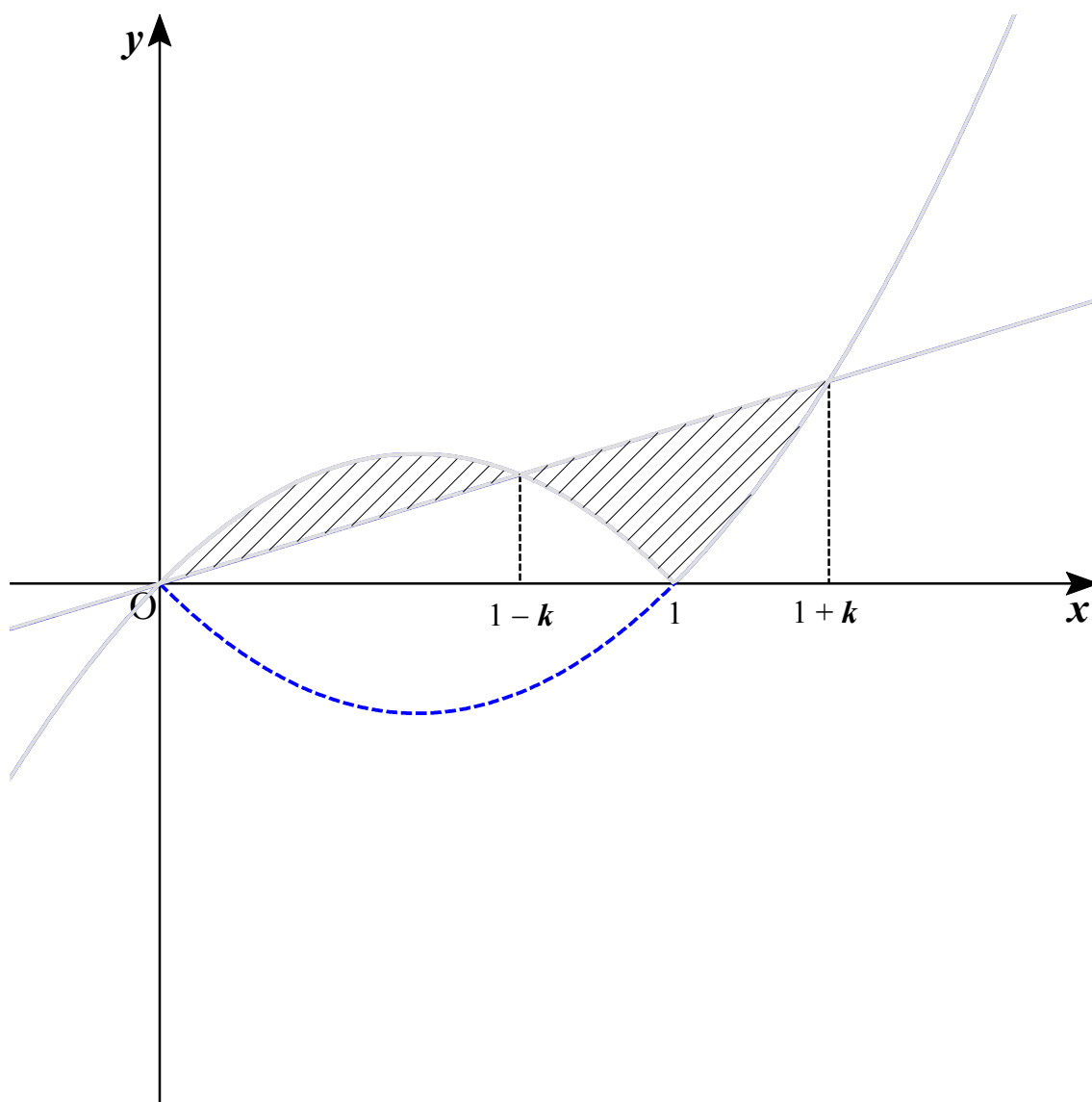
を引くと,



赤色斜線部は面積  $\times -1$  (負) ができるので、これを黒色斜線部にするために、



を2つ加えると、



となる。